

# 紀北分院外来診療医担当表

	月		火		水		木		金	
	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM
総合診療	2診		総合診療 廣西	糖尿病外来 河井	糖尿病(循環器) 羽野	認知症センター 廣西	認知症センター 廣西	総合診療(循環器) 羽野		
	3診	糖尿病外来 河井		呼吸器 中西	泌尿器外来 藤井	肝臓 佐藤 ※再診のみ	リウマチ膠原病 応援医師 (2~4週)			
	4診		皮膚科 神人(1~3週) 加山(2~4週)	脳神経内科 梶本	脳神経内科 梶本		皮膚科 稻田(1~3週) 中塚(2~4週)			
	新患5診	石本		川口		応援医師	河井		寒川	
	外科診						櫻井 [第3週を除く]			
脊椎ケアセンター	6診	脳外 大岩	認知症センター 大岩		脳外 上野 [第1週]	脳外 大岩	脳外 大岩		脳外 大岩	
	7診	整形外科 延興		整形外科 中川	足の専門外来 浅井(奇数週)	整形外科 前田	整形外科 延興		整形外科 中川	
	8診	整形外科 玉井		整形外科 原田		整形外科 玉井	整形外科 原田		整形外科 前田	
眼科	1診	小門	西	岡田	雜賀 岩 西 住岡 石川 [第1週] [第3~5週] [第4週]	永井	子ども外来 鈴木	小門	永井	岡田 術前外来
	2診	安武	永井	黄斑外来 西		西		永井	西	小門
小児科		青柳	樋口		青柳	青柳	青柳	青柳	青柳	
リハビリテーション科	幸田	幸田			幸田	幸田	幸田	幸田	幸田	
	南方			南方	南方	南方	南方	南方	南方	

診察受付 月曜日～金曜日：8時45分～ 再診で予約のある方は指定時間（予約表の記載時間）

\*当院は原則すべての診療科で予約制となりますので、来院前に予約センターへ電話での予約をお願いします。

紀北分院 予約センター（受付時間8時45分～15時）

TEL 0736-22-4600

紀北分院 認知症疾患医療センター 診療予約・介護相談（9時～17時）

TEL 0736-26-3004

最新の情報は紀北分院ホームページにも記載しています。

令和4年4月からの予定

## 「かるて師匠の健康高座」

可流亭：紀子ちゃんは蛇は好きかい？

紀 子：えー！嫌いに決まってるじゃないですか。気持ち悪い。

可流亭：（笑）。僕も嫌いだけど、たまに爬虫類が好きな人もいるよね。

紀 子：蛇だけは生理的に嫌いです。

可流亭：蛇を嫌いだと思うのは生まれつきだと思う？

紀 子：うーん、たぶん生まれつきじゃないかな？だって人類が原人だった時代から蛇は危険だったろうし、蛇は危ない！って遺伝子に組み込まれている気がする。

可流亭：なるほど。実はお猿さんを使った実験があって、実験室で生まれて育ったお猿さんは蛇を怖がらないんだって。

紀 子：ということは、生まれつき蛇が怖いんじゃないなくて、生まれてから蛇の怖さを学ぶってことなのかな？

可流亭：子供が何歳ぐらいで蛇を怖がりはじめるかという調査ではだいたい3歳の子供でも蛇を怖がるそ�だよ。

紀 子：よくわからなくなってきたけど、となると極く幼いときに蛇の怖さが子供に入力されるということなのかな？

可流亭：うん、例えば親が蛇を怖がる様子を見て学んだり、あるいは神話とか絵本とか、最近だとテレビや動画を見て蛇は怖いんだ！となる可能性があるね。でも、蛇が怖いかどうかは別として、蛇の鱗のパターンを識別する能力は人間でもお猿さんでも鋭いという実験結果があります。ついでに他人の怒った顔を認識する能力も高いそうだよ。

紀 子：ということは、もともと蛇とか蛇の鱗のような連續パターンを見つける能力は生まれつきあって、かつそれが怖いんだという情報が脳の中で生まれてから成立するということになるのかしら。

可流亭：たぶんそのとおりだと思います。ちなみに脳の底のほうにある”扁桃体”という部分を破壊するとそれまで怖かった蛇が怖くなってしまったり、人が怒っているのを認識できなくなるらしいよ。実際そういう人がいて医学論文にも載っています。

紀 子：そうなんだ。蛇が怖くなってしまうとジャングルで暮らしてたら危険だし、蛇が怖いと思うような感情を利用して人類は生き残ってきたのかな。つまり私たちの何気ない感情とか行動パターンって人類や生物の膨大な過去の結果なんでしょうね。

分院長・内科教授 廣西昌也



### 【お知らせ】

・紀北分院広報誌「あじさい」は春夏秋冬の年4回発行します。

和歌山県立医科大学附属病院紀北分院 分院長 廣西昌也

〒649-7113 和歌山県伊都郡かつらぎ町妙寺219 TEL0736-22-0066(代) FAX0736-22-2579  
ホームページアドレス http://www.wakayama-med.ac.jp/med/bun-in/index.html

2022年3月発行



# 和歌山県立医科大学附属病院 紀北分院 広報誌



# あじさい



vol.39  
2022.冬号

地域の方々にひとことご挨拶申し上げます。

昨年のあじさいのご挨拶を書いているときに、さすがに次の年(今年)はコロナも終息し、明るいご挨拶ができるだろうという根拠のない見通しがあったのですが、見事に予測ははずれてしまいました。あらためて感染症の脅威を痛感しているところです。

病院を運営していくためには、夜間勤務を含めた、特に看護師の勤務体制を整えること成り立たないのですが、コロナ感染症の方に入院していただくために病棟にスタッフ数を集中する必要に迫られました。そのためコロナ診療が緊迫した期間は、通常の入院患者さんに転院していただいたり、救急や新入院をお断りせざるを得ないようになりました。もともとの病院の規模に応じたスタッフ数が規定されているなかで、特別な病棟に人数を割くための苦渋の対応ではございますが、地域のみなさまには多大なご迷惑をおかけしていることをお詫びすると同時に、困難な状況の中でご理解・ご協力いただいた地域住民の方々、消防、行政、医療、介護関係の方々などに感謝申し上げます。

分院長  
廣西 昌也

また患者さんやご家族から「たいへんやな、頑張れよ」とお声がけいただいたら、地域企業さまからのサポートをいただいたことは、何かとストレスも多いスタッフにとって何よりの励みになりました。それのご厚意に対してあらためて心からの御礼を申し上げます。

新型コロナの影響は困ったものではありますが、ネット会議が普通になり、移動のための不要な時間や体力が節約できたり、また集会ごとが苦手な私のような者には、食事会・宴会が減ったことは実にありがたいことで、今後働き方改革を進めていくなかでヒントになることもありそうです。

「良いことは悪いこと、悪いことは良いこと」という箴言(しんげん)があるそうですが、コロナを突きつけられたおかげで得た知恵を今後に生かしていければと思います。個人の価値観、私たちの地域文化、科学的最新医療、スムーズで効率のよい医療システム、これらにバランスよく視点を向け、偏りのない良質の医療を提供すべく紀北分院を運営してまいりますので、地域のみなさまのご理解とご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。



白内障・硝子体  
手術機器を新た  
に導入



遠くまで足を運ばなくとも、  
紀北分院で白内障・硝子体手術を受  
けていただけるようになりました。



### 【掲載内容】

- ・分院長のご挨拶
- ・睡眠時無呼吸症候群について
- ・新型コロナウイルス感染症を拡げないために
- ・令和3年度医学教育等関係業務功労者表彰の受賞
- ・就業体験に行ってきました
- ・外来診療担当表
- ・かるて師匠の健康高座



## ■ 睡眠時無呼吸症候群について

内科 助教 岸本祥平

紀北分院内科の岸本です。今回は、睡眠時無呼吸症候群に関してお話しします。睡眠中によくいびきをかく、息が止まる、このような症状を家族の方に指摘された人はいませんか？ または、電車の中で、いびきをかいて居眠りをしている肥満の方で、睡眠途中に数秒息が止まっているのを見たことのある人はいませんか？

実は、これは睡眠時無呼吸症候群の恐れがあります。睡眠時無呼吸症候群とは、主に睡眠中に空気の通り道(特に上気道)が狭くなり、無呼吸状態(10秒以上の呼吸停止)といびきを繰り返す病気です。成人男女とも3～5%程度に見られる病気ですが、睡眠中の無呼吸やいびきによって睡眠の質が低下し、日中の眠気による事故などにつながりやすいことが問題となっています。

また、睡眠時無呼吸症候群の患者様では、健康な人と比べて、高血圧が1.3倍、糖尿病が1.6倍、脳梗塞が3.3倍、交通事故が7倍起こしやすいとされています。朝起床時に頭痛がしたり、日中昼間に強い睡魔に襲われ、夜間の睡眠の質が悪いことが特徴で、肥満、糖尿病(糖尿病性神経障害)の患者様でかかりやすいとされています。ただの眠気と油断していくは、それが将来心筋梗塞や脳梗塞の原因ともなり得ます。

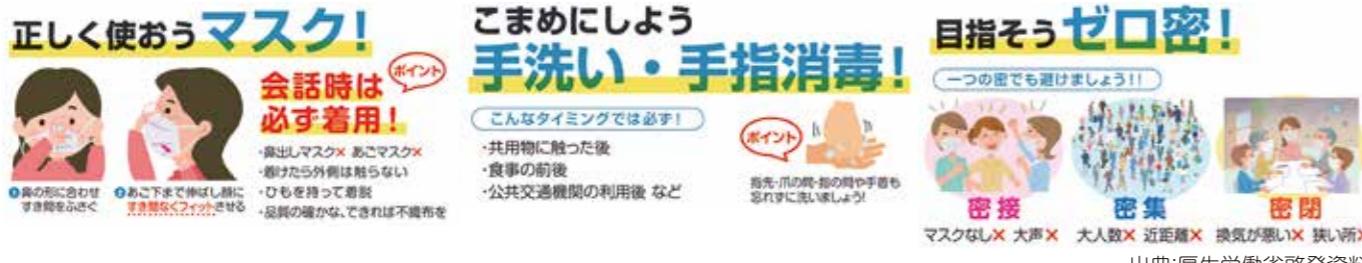
紀北分院では、1泊2日の入院で、PSG検査を受けて睡眠時無呼吸症候群があるかどうかを精密に調べることができます。是非とも紀北分院で検査を受けましょう。

## ■ 新型コロナウイルス感染症を拡げないために

### 紀北分院の取り組み

- ① 発熱外来 感染症疑いの患者さんを診療しています。
- ② 電話相談 伊都・橋本医療圏の病院（当院を含む。）が協力して電話相談を実施しています。
- ③ 院内感染予防
  - 正面玄関で検温を実施し、日々の体調を管理しています。
  - 待合室の定時消毒を実施し、感染リスクの低減をはかっています。
  - 屋外に発熱外来（簡易診療所）を設置し、感染疑いの患者さんと一般患者さんの診療スペースを分けています。

### 皆様へのお願い



## ■ 新型コロナワクチン接種について

多くの方に接種を受けていただくことにより、重症者や死者を減らし、医療機関の負担を減らすことも期待されます。

また、3回目接種により、感染予防効果や重症化予防効果等を高める効果があることが、臨床試験や様々な疫学研究等で報告されています。

新型コロナワクチンの接種をお勧めします。

## ■ 「職業体験学習」に行ってきました

11月12日、かつらぎ町立妙寺中学校において「職業体験学習」の機会を得ました。

医療・看護の仕事に興味のある学生さんを対象に、白衣着用体験をはじめ、看護師の仕事の内容や看護師になるためにはどうすればよいのかなど、資料を用いた講義や映像でお伝えしました。そのなかで高齢化社会にも触れ、高齢者体験を通して、私たちができるることは何か考えました。全国の中でも和歌山県は群を抜いて高齢化が進み、高齢化社会の先頭を走っています。高齢者体験をした学生からは、「(高齢者に)優しくしようと思った」「何か手伝えることがあれば手伝いたいと感じた」「困っているように見えたら声をかけようと思った」などの意見が出ました。

看護は、「人を思い、寄り添う」ところからはじめます。この職業体験学習をきっかけに、未来のナースとして、また、1人1人が尊重される優しい社会を創る一員として、歩みをすすめてもらえたなら嬉しく思います。



## ■ 令和3年度医学教育等関係業務功労者表彰の受賞

当院の増田久美子看護師が、令和3年度医学教育等関係業務功労者表彰を受賞しました。この表彰は、大学における医学・歯学に関する教育・研究・患者診療等に係る業務に長年従事し顕著な功績のあった者に対し、文部科学大臣から授与されるものです。

本来であれば、直接文部科学大臣から授与されるところですが、今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、本学理事長から授与されました。

